

イチジク、ブドウの生産安定に向けた支援

対象者 甲賀町 N農園

【普及活動のねらい・対象】

甲賀町のN農園ではブドウ、露地イチジクの栽培を熱心に行い、技術習得にも励まれています。

しかし、昨年度、ブドウでは赤色系品種である「竜宝」の着色が悪かったこと、イチジクでは気温が低かったことから収穫時期の遅れが課題となっていました。

そこで、ブドウ「竜宝」の着色向上と、イチジクの収穫時期の前進化に調査研究として取り組むこととしました。

【普及活動の経過】

1. ブドウの着色向上について

着色不良の原因は、ブドウの仕上がりが大きいのこと、新梢管理が十分でないことが考えられましたが、栽培管理方法を確認したところ仕上りの大きさは問題なく、結果枝のわき芽処理を7月に入ってから行っていることが問題でした。

このことから、結果枝の副梢管理を7月初めまでに終え、日当たりがよくなるような管理を徹底してもらいました。

2. イチジクの収穫時期の前進化について

N農園のイチジク（品種：榊井ドーフィン）収穫開始時期は例年遅く、昨年度は8月25日頃でした。これは、ほ場が中山間地にあり、気温が低いためと考えられます。

そこで、地表面のマルチ敷設と樹体への寒冷紗被覆で保温する方法に取り組みました。マルチは赤外線を通し、可視光線は遮断して雑草の生育を抑える資材を3月27日から収穫終了まで使いました。樹体には透過率が90%で保温による発芽促進が期待できる白色の寒冷紗を4月7日から5月9日まで被覆しました。



マルチと寒冷紗被覆

【普及活動の成果】

ブドウについては、収穫開始時点（8月15日）での着色は全体に悪かったですが、収穫が進むにつれ着色していき、最終的に着色は問題となりませんでした。

イチジクについては、地表面のマルチ敷設と樹体への寒冷紗被覆を組み合わせることで、萌芽は無処理と比べて6日程度早まるのではないかと推察されました。

今後、ブドウでは、引き続き副梢管理を早く済ませることで園内を明るく風通しが良い状態で管理するとともに、房の大きさ、着房数に注意することで、毎年安定して着色が得られるか確認していきたいと考えています。

イチジクでは、地表面のマルチ敷設と樹体への寒冷紗被覆に引き続き取り組んでもらい、次年度も同様の結果が得られるか、また、寒冷紗被覆の有無でどれだけ生育差が出るか調査していきます。（古山）



副梢管理後の結果枝